

看護師のキャリアラダーの特徴

急性期・回復期の看護師に必要な能力は「看護実践能力」「組織的役割遂行能力」「自己教育、研究能力」です。一人ひとりがこの3つの能力を高める事を目的に、当グループではキャリアラダーを作成しました。段階に応じた研修を受け、知識技術を身に付けることで、着実にステップアップしていきます。

	目標	主な研修項目		
		急性期	回復期	
STEP UP	V	1. ケアの受け手や状況(場)の関連性や意味も踏まえニーズを捉える 2. 最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する 3. ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように他職種力を引き出し連携に活かす 4. 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	外部研修	各種事例発表におけるコメンテーター、各部署インシデント分析・対策の評価、看護介護10か条全体評価、外部研修
	IV	1. ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズを捉える 2. 様々な技術を選択・応用し看護を実践する 3. ケアの受け手を取り巻く多職種力を調整し連携できる 4. ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき選択を尊重できる	フィジカルアセスメントⅣ、標準看護計画-上級-、看護の振り返り(eラーニングレポート) 災害Ⅳ、医療安全管理Ⅳ、看護研究:指導編、マネジメントⅣ、問題解決技法Ⅱ、看護倫理:実践Ⅲ	ICFを用いた事例発表のコメンテーター、FIM(院内研修)講師、事故分析事例発表のコメンテーター、看護・介護の10か条(排泄評価・退院困難事例発表、倫理的問題における事例分析手法)
	Ⅲ	1. ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえたニーズを捉える 2. ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえた看護を実践する 3. ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる 4. ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる。	フィジカルアセスメントⅢ、標準看護計画-指導-、退院支援-リーダー編-、看護の振り返り(eラーニングレポート、ナラティブレポート)チームナーシング:指導編	フィジカルアセスメント:リーダー編、ICFモデルを用いた事例発表、嚥下機能を高めるケア、看護・介護10か条(食事)評価、事故事例分析手法・事故分析発表、記録監査、家屋調査動向体験、訪問看護同行体験・退院前カンファ参加体験
	Ⅱ	1. ケアの受け手や状況(場)のニーズを自ら捉える 2. ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する 3. 看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる 4. ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	フィジカルアセスメントⅡ、標準看護計画-中級-、退院支援-実践編-看護の振り返り(eラーニングレポート)チームナーシング:実践編 災害Ⅱ医療安全管理Ⅱ、看護研究:実践1、マネジメントⅡ(教育:実践)、看護倫理:実践Ⅰ	フィジカルアセスメント:スタッフ編、ICFの概念、高次脳機能障害、言語障害、摂食嚥下機能障害、排泄障害、FIM/MMSE、生活再構築の支援、退院支援、介護保険
	Ⅰ	1. 助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズを捉える 2. 助言を得ながら安全な看護を実践する 3. 関係者と情報共有ができる 4. ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	フィジカルアセスメントⅠ、標準看護計画-初級-、退院支援-基礎編-看護の振り返り(eラーニングレポート)、チームナーシング:基礎編	リハビリテーション看護、看護介護10か条、廃用症候群の予防、ポジショニング・移乗・シーティング、検査データの見方
新人研修	1. 医療チームの一員として自覚を持ち他職種と良い人間関係を保つことができる。 2. 助言を得て受け手の状況(場)のニーズを捉える 3. 助言を得ながら安全な看護を実践する 4. 関係者と情報交換し、ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	集中的に基礎看護技術を習得 現場と研修を反復する実践型研修 回復期リハビリテーション病院は急性期病院の研修に一部参加が可能		

